

昭和四十二年三月十日招集(才号)
第一面市議會定例会會議錄

館山市議会第一回定例会会議録(第一号)

昭和四十二年三月招集

一 三月十一日(土曜日)

一 現在議員三十四名でその氏名次のとおり

一番 吉田 勇治郎

二番 鈴木 正一郎

三番 小柴 孝

四番 館石 伝蔵

五番 田中 祿郎

六番 秋山 大三郎

七番 田村 源治郎

八番 望月 照正

九番 安西 益男

一〇番 辻田 実

一一番 石井 正

一二番 菊井 敏博

一四番 志村 信作

一五番 小沢 恵太郎

一六番 関 武夫

一七番 黒川 佐太郎

一八番 西村 夏次

一九番 藤田 好治

二〇番 保科 忠夫

二一番 江田 徳太郎

二二番 君塚喜三 二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎 二五番 萩生田七郎

二六番 嶋田繁 二八番 山田教宇

二九番 鈴木市蔵 三〇番 安藤亀吉

三一番 安沢徳順 三二番 三沢節

三三番 高橋文治 三四番 山本昇

三五番 松本藤太郎 三六番 山口康

一 議事日程

第一 議案第三号乃至三十一号一括上程

第二 施政方針並びに議案の趣旨説明

第三 議案第十大号 館山市議会委員会系例の一部を改正する

系例の制定について

第四 議案第十七号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任

について

第五議案第十八号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定
について

第六議案第十九号

館山市特別会計条例の一部を改正する条例
の制定について

第七議案第二十号

館山市水道の設置及び管理に関する条例
の一部を改正する条例の制定について

第八議案第二十一号

館山市市営住宅の設置及び管理に関する
条例の一部を改正する条例の制定について

第九

議案第二十二号

館山市厚生年金保険被保険者休養施設設
置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十三号

館山市厚生年金保険被保険者休養施設近
代化基金の設置及び管理に関する条例の制
定について

第十議案第二十四号

館山市取置の給与条例の一部を改正する条例の

制定について

第十一 議案第三十五号

千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定について

第十二 議案第三十六号

館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

第十三 議案第三十七号

館山市清掃条例の一部を改正する条例の制定について

第十四 議案第三十八号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

第十五 議案第三十九号

館山市福祉事務所設置条例の制定について

第十六 議案第三十号

館山市附属機関設置条例の制定について

第十七 議案第三十号

館山市内字区域及び名称の変更について

第十八 議案第十号

昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

議案第十一号

昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算

議案第十三号

昭和四十一年度館山市上畜場特別会計補正
予算

第五

議案第十三号

昭和四十一年度館山市休養施設特別会計
補正予算

議案第十四号

昭和四十一年度館山市館山エースホテル特別
会計補正予算

議案第十五号

昭和四十一年度館山市上水道事業特別会
計補正予算

議案第三号

昭和四十一年度館山市一般会計予算

議案第四号

昭和四十一年度館山市国民健康保険特別
会計予算

議案第五号

昭和四十一年度館山市簡易水道事業特別
会計予算

議案第六号

昭和四十二年度館山市之畜場特別会計予算

議案第七号

昭和四十二年度館山市休養施設特別会計予算

議案第八号

昭和四十二年度館山市館山エスホステル特別会計予算

議案第九号

昭和四十二年度館山市南部簡易水道事業

特別会計予算

二法第百三十一條による出席説明員

市

長

本間

護

助

役

小出

武

男

収

入

役

完

戸

秘

書

課

長

小倉

隆

男

商

工

課

長

小沢

正

治

企

画

課

長

谷

貝

茂

生

庶

務

課

長

山口

実

財政課長	長谷川 広治
市民課長	羽山 房雄
調査課長	高木 哲三
収納課長	多田 俊一
農林水産課長	伊藤 幸太郎
土木課長	新井 重助
建築課長	池田 春雄
衛生施設課長	吉田 耕一
保健衛生課長	池田 亮山
福祉事務所長	鵜澤 貫寛
教育課長	押本 禧逸
教育委員会 庶務課長	干場 伊右門
同 学校教育課長	山根 春夫
同 社会教育課長	源間 利一

消防本部次長 石渡 東

選挙管理委員会 大嶋 重義

書記長

監査委員事務局長 館石 勘治

農業委員会

事務局長

山口 太一

診療所事務長 平柳 徳藏

一本議會事務局長 局長補佐 書記

事務局長 高梨 清一

事務局長補佐 太田 博雄

書記 兵藤 恭一

同 山田 俊康

同 高尾 豊

同 碑庄 司睦 彌

一次席議員 三十二名

一次席議員 二名

午前十一時開議

鶴山市議会

。議長(田中禄郎君)

本日の出席議員数 三十二名

これより昭和四十二年第一回市議会定例会を開会いたします
本定例会の議案審査のため地方自治法第百二十一条の規定に
よる出席要求に対し、小出助役、兎戸収入役、池田課長
新井課長、伊藤課長、羽山課長、高木課長、夕田課長
鶴沢所長、小沢課長、小倉課長、谷貝課長、山口課長
長谷川課長、池田課長、吉田課長、大嶋書記長
館石局長、山口局長、石渡次長、平柳事務長、押本教育長
干場課長、山根課長、源間課長以上の者が出席する旨の
報告がありました。

会議録署名の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に十四番議員志村信作君
二十三番議員中村省吾君以上兩君を指名いたします。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よって決しました。

会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本月十日より三月三十日までの二十日間をいうこととあります。

おはかりいたします。

会期を二十日間と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よって会期は三月十日から三月三十日までの二十日間と決しました。

重ねておはかりいたします。

前例にならいましてお手元に配付いたしました会議日程表は本定例会の大体の日取り予定であります。協議会運営協議会の意見により作成いたしました。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともにこの間議案の追加または議事案の都合によりましてその都度これを改めることにして大体このようにいたしましたと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたしました。本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。日程第一議案を上程いたします。

ただいままで送付のありました議案第三号^ア至三十号を一括して議題といたします。おはかりいたします。

この際各議案の朗読はこれを省略することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決しました。
日程第二これより昭和四十二年度における施政方針並びに
議案の提案説明を求めます。

(市長職務代理者助役登壇)

市長職務代理者助役(小出武男君)

本間市長が病氣静養のため当議会に出席できませんので
本日から三十一日までの間、私が市長の職務代理として取り扱う
ことに相なりました。三月議会は市に取りましてもきめぬ重要な
な議会でございます。私代理者として非常に責務の重大さを
感ずる次第でございます。とうぞ皆さま方の御協力によりまして
最善を尽して職務の遂行をはかりたいと思っておりますのでよろしく
お願いいたします。

これより本定例都市会に提案いたします。諸議案に対しまして

その趣旨並びに施政方針の一端を申し上げて審議の御参考に資したいと思ひます。まず昭和四十二年度は全般的な傾向といつてしまつて歳入が鈍化する反面、歳出の増嵩が予想される年であります。すなわち国におきまゝは、本年に引き続きまゝ減税政策の実施、国税三税の鈍化により地方交付税の伸びも期待できない状態でありまゝ、さらに市の一般財源もここ数年の伸張度は望むべくもなく、わずかに固定資産税、電ガス、たばこ消費税についで若干の増加が期待されるに過ぎないのであります。

一面歳出におきまゝは職員給与のベースアップの平年度化、前年度からの事業が四十二年度に集中投資されることもありまゝ、予算編成に当りまゝは時代感覚を持つて清新な施策を取り進めることにいたし、まゝ、極力消費的経費の節減につとめた次第であります。

以上関連諸試案について提案の理由に加えまして所信を申し上げ皆さんの御理解と御協力をお願いする次第であります。市は当所からいわゆる三本の柱といたしまして観光産業教育を取り上げて市政を進めて参りました。

その間財政面その他で幾分の困難がございましたが議員各位の御理解と御協力によりましてその目標に向つて一途まい進を続けておる次第でございます。しかしながらこれらの施策は一朝一夕に達成されるものではございませんのでもちろん今後とも引き続いてこれに全力を傾注していきたいと考えるおる次第でございます。

近時交通安全対策は全国的な問題として緊要視されて参りまして当市におきましても最近車両の激増が目立って不完全な道路事情におきましても必然的に交通禍増加が予想されますので本年度はこれが対策についても大いに考慮して

いさた、いと思っております。

最近社会経済の進展に伴う地域住民の生活水準が向上され、公共施設の高度化、近代化が要求されるいわゆる広域行政の面についても市として十分配慮していただきたいと思ひます。観光対策でございすべ、新年度はさらに強化していきな、いと考へまして総額千五百余円を計上してこれが対策を取り上げていきます。

内容としてましてまず観光推進母体である観光協会の育成を考へたのでございすべ、御承知の通り協会は再建されてこの一年に過ぎません。いまだ軌道に乗っておりませんので、これを育成して将来観光の一翼をになう団体としていきたい。こういうふうに考へた次第でございす。またかねて推進して参りました南国カード演出につきまして平砂浦、フラワラインのやし並木が大きな魅力となつて反響を呼んでおります。

今後観光にも大きな要求を含んでおりますので、さらに鏡ヶ浦浴線にもこれを実施して北条海岸にやゝ並木を作ってこのムードを生かしていきたい。こういう構想を取り入れた次第でございします。さらに観光対策上におきましては観光客の大層半が海水浴客で占められておりまして、その遊泳者の危険防止キャンペーン対策これに重点をしぼって監視員の充実などをほのめたいと考える次第でございします。

また房州の花畑これは冬から春にかけて大きな観光資源となつておる現状に考えまして、市としてましてもこれに適応する施策を講じていきたいと思ひます。

道路より花畑公園などを作つて冬期における観光客誘致の一助にしていきたいと考えた次第でございします。

館山湾の一部を埋め立てて観光拠点の施設を作る計画は目下検討中でございまして、本年度中にぜひ具体化してい

きたいと考えております。なお国鉄房総西線の電化早期実現をはじめ城山の南港は従来通り推進して参りたいと思ひます。

次に環境整備事業といたしまして新設の南部簡易水道は昭和四十二年度の主要事業でございまして、特別会計を設け置し本年度は事業量一億七百万円に對して二千六百九十三万円を繰り出すことにいたしました。また館山市、富浦町及び三芳村上水道組合への負担金も三千万円を支出する等、水道施設に對しては格段の措置を講ずることといたした次第であります。

さらに道路対策費につきましても六千万円、公園緑地対策費として七百万円を計上して観光と合わせて市民生活の向上に寄与して参りたいと念じておる次第でございします。

住みよい社会環境、生活環境を作りますための都市計画の

策定は急務でございまして、本年度都市計画策定の諸経費としまして人員を配置するとともにこれに関係する費用三十万円を計上いたしました。

次に産業部門でございします。まず農業面の振興対策では昨年一本化を見よした農協を推進母体として農家経済の充実を期するとともに安定農業への近代化を目指す農業構造改善事業費として二百万円さらに近代化の基盤整備土地改良関係に四百七十万円近代化の事業促進関係費として百八万余円さらに飼料の自給度を高め酪農の振興と合理化のために関係費として二百三十三万余円のおもなるものがございます。

水産部門では基盤整新備部門の漁港の整備。当市には一種二種三種の漁港あるいは商港。その性格によって多様な漁港を多くのかえておりますので将来は性格規模地域的

なことを十分考えて重点的に整備をはかつて参る必要がある
うと思ひます。幸いにして目下漁協の統合問題が関係者
の間で進められておりますのでこれらの問題が解決し次第
代表者と話し合つて重点整備をはかつていきたいと考えてお
ります。本年度は一応昨年に引き続きまして船形、富
崎兩港は県計画に基づきまして四百六十万余円を投じて整
備をいたします。さらに西岬地区四漁港におきましては三百六
十七万余円を計上いたしております。

また沿岸漁業対策振興費として構造改善関係費百七十六
万九千円、漁港機能施設関係に百四十万円を計上し
漁業の直接振興推進母体である漁協を中心として新業の近
代化の促進を推進して参りたいと考えております。

商工部門につきましても最近国内経済の好転の中で明るい
見通しがつつつあります。さらに企業健全育成を期し

て自主的育成機関である商工会議所に二百余万円の補助を計上しております。さらに従来からある小企業者の設備改善運転資金の融資対策としてこの預託金は業者からの増額要望も多く商工業振興の見地からもっとも緊要と認めまして五百万円を増額して二千万を計上いたしました。

次に労働対策についてでございますが一般労働者個々の福利厚生措置は困難性がございますので地区労を中心として補助として七十万、預託融資資金として新年度はさらに五十万増額して二百万円を計上しております次第でございます。

次に教育部門でございますが、目下もっとも真剣に取り上げ検討されております適正規模の学校統合問題ではなにかと思ひます。

すでに教育委員会において再三にわたりまして検討されておりますが、帰さるところは校舍建築の財源問題になります。

が数多い学校を一勢に建築するわけにいきませんので新年
度はとりあえず房南中学校の改築で取りかかることにした
しまして本年度二千四万円を措置いたしました次第でございます
次に市民センターの建設でございますが御案内のように市民
センターはすでに三ヶ年継続事業として一億五千万の予算議
決も得ておりますがいろいろ改善検討を加えましてさらに
内容を充実するために総額二億一千八十余万円に改めざるを
得ないのであります。これに対する新年度予算一億一千七
百五十八万円を計上して計画年度内に完成させまして
市民のつどいの場、社会教育の場、体位向上の場さらに観
光面に寄与さし得る大殿堂たらしめたい考えでございます
北条小学校は老朽校舎として早くから新築の必要が
呼ばれておりますが校地が狭いので文部省の基準からいた
しますと敷地三万有余平方メートルの必要とのことです。

現在のところでは敷地の拡張は困難であり場所的にも将来性を考慮するところ移転が適當だと考えまして、教育委員会からの強い要求もありとりあえず市開発公社に委託して目下候補地を選考中でございますが、本年度中には校地だけを確認していただきたいと思っております。

学校備品の整正備はもっとも必要でございます。

最近では児童生徒の体位向上に合わせた机、腰掛の整備充実をはかるために年度計画による予算を計上いたしました。

次に交通安全対策の重要性から学校教育面でもこれを重視いたしまして本年度は特に交通安全研究学校を指定して本施策の強化をはかって参りたいと考えた次第でございます。さらにまた新たな設備といたしまして資料センターを設け、映写機やスライド等を設備していくこと

にしました。なお従前のら意を用いて参りましたP・T・A
負担軽減措置に つきましても前年同様配慮いたした
次第でございます。

次に総務費関係について申し上げますとまず交通安全
対策として市独自で交通安全事務所を取り上げて参
りたいと思います。また特に児童、生徒等の保護するた
めに比較的危険度の高い学区に交通指導員を配置
して市民総ぐるみで事故対策を講じてこれが万全
を期して参りたい念願でございます。

これのための関係費として二百七十万円を計上いたしま
した。

次に民生関係でございますがまず青少年対策を
取り上げる必要があろうかと思ひます。

青少年の健全育成についてはますますその強力な

推進が緊要視されて参りましたので新年度も引き続きこれが育成に意を注いで参りたいために関係費として百余万円を計上した次第でございます。

また青年館の建築は予定より一館増設いたしました。本年度は三館を見込みましてこれが経費四百八十万円を計上さらに老人福祉対策につぎまして老人クラブ育成を主眼とするために八十余万円を措置いたしました。次に住宅関係でございますが、国県においても一世帯一住宅を目標に力を注いでおりますし、当市もまだ住宅難は解消されないばかりか世帯分化の傾向からまだまだ計画的に建築を促進する必要があると思っておりますので新年も二種住宅十六戸の建設を予定いたしました。二千九万余円を計上いたしました。

消防関係でございますが、消防は一朝一夕で尊い人命

尊重な財産を消滅するという非惨な状況を予想し、考え
合わせる。と、館山市の消防体制が必ずしも完全とはいえ
ないので、この際新たに専任消防長を設置して消防行政
の万全を期したいと考えた次第でございます。

本年度新たな計画といたしまして姉妹市交換の便節
を考えたわけでございます。

これは姉妹市に市民の代表を派遣して交流をはかりたい。
こういうことで一応経費の一部として百万円を計上いた
しました。以上おもしろな事業の概要を申し上げましたが、

これらによって新年度予算は一般会計総額十億二千三百
十四万九千円で、昭和四十一年度当初予算と比較しますと、
二億一千百万円の増額で率から見ましても二六%の増となり
いけば大型予算の様相があるのでございますが、投資的経費
も事業に主体性をかけて編成した次第でございます。

次に歳入でございますが本予算の歳入の主格をなすものは市税三億四千五百万、地方交付税一億五千七百万円等があり、ます。市税関係ではたゞは消費税が関係法の一部改正によりまして千百万円の増が見込めるのは大体自然増にふるものでございす。また地方交付税は国税三税の伸張と前年の実績績から見まして計上しております。

国庫支出金では施行事業の関係があります。若干下回わって参りました。千百万円の増に過ぎません。

この結果、一般財源六億二千八百万円で一億七千万の増となり、特定財源は三億九千五百万円となります。

国民健康保険事業につきましては、近年制度上の改善に伴い、事業内容が強化されております。一方医療費の動向を見るときにおお自然増加の傾向を示しております。

保険給付総額は一億八千六十五万余に達する見込みで

でございます。さらに給付内容の改善をはかるために助産費支給額を増額することについて、また所要の措置をいたしております。

また保険税におきましては保険財政の自主健全化を促進しかつ極力市民負担の軽減をはかる努力をいたしまして負担増を一〇%以内に止めるよう措置いたしました次第でございます。

次に直診の運営につきましても、最近利用状況の増加に伴いまして財政面についても非常に好転しておる現状でございます。施設の整備を期するために先年診療所の移転新築をいたしたべ、これに関連して医師住宅を新築して住民の診療に万全を期したいと考える次第でございます。

次に休養施設鳩山社は現在まで緊実な経営を基本として

努力して参りました。四十一年度は施設の改善補修費として特別積み立てをいたしました。が、新年度もさらに経費の合理化、適正化をはかり利益の増収は特別積み立てに充當して将来のためのたくわえをいたしたいと考える次第でございます。また南部簡易水道は、神戸、豊房地区の一部と富崎地区の五千人を対象として実施しようというものでございます。この地区は海岸地帯のため飲料水にもこと欠く状況でございます。この地区に飲料水を供給できれば住民の環境衛生ばかりが、観光、産業等の開発に大いに寄与できるものと考えまして、本年度から二年事業費で実施しようというものでございます。

本年度は工事請負費一億円、その他委託料四百万円等、を予算計上いたしました。

その他特別会計におきまして、それぞれ特性を生か

し一般会計からの繰り入れを避け、独立採算による運営をするよう措置いたしました次第でございます。

次に一般議案関係の提案理由の説明を簡明に申し上げます。

まず館山市職員給与条例の一部改正であります。これは一般職の職員の給与に関する法律の一部改正に基づきまして、国家公務員に準じて昭和四十一年度九月一日に上りまして、市の一般職員の給料・通勤手当・扶養手当を改訂し、合わせて新たに今回事務管理手当及び出張手当に関する事項を増設いたしました。職員の勤務条件の向上を図るものであります。

次に厚生年金保険被保険者休養施設設置条例、館山市幼稚園保育料徴収条例及び館山市清掃条例の一部改正でございますが、休養施設については、利用料

を幼稚園については保育料を、清掃条例については手数料の一部をそれぞれ改正したいと考える次第でございます。休養施設利用料につきましては、給与改訂、食事材料費、光熱水道費等の変動に伴い、まして現行の利用料金をもちましては国民宿舍の健全な運営が困難になって参ります。また利用者に対する処遇の低下を招くおそれがありますので、この際、最小限度の基準改定を行ない、これらの困難な事情をすみやかに解消するため、厚生省の指示により利用料の改定を行なふんとするものであります。

保育料、清掃手数料につきましても給与改訂諸物価の高騰等を考慮してそれぞれ改定しようとするものであります。次に付属機関設置条例の制定であります。これは現在個々の条例で設置されており、

付属機関を一本の条例の中に統合いたしまして、新たに

現下激増しつつある交通禍の万全を期するため交通
対策審議会を加えてこの際整備しようというものであり
ます。また新たに休養施設の近代化をはかり適正な
管理と運営を期するため厚生年金保険被保険者
休養施設近代化基金の設置及び管理に関する条例
を制定しようというものであります。

次に国民健康保険条例一部改正であります。これは、
助産費の二千円を三千円に引き上げるとともに条文の整
理を行なうものであります。

市民条例の一部改正は地方税法の一部改正に伴い、
地方税法施行令の一部改正が行なわれ、よって改正し
ようとするものであります。

次に市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正
でございますが、これは新たに竣工した市営住宅二十戸

を公の施設として条例中に加えるようにするものであり、その他福祉事務所設置条例の制定、千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の改正があります。これらは関係法令に準拠して市条例を制定しまたは改正するものでございます。

次に館山市内の大字、字区域の変更についてでございます。これは山本、安布里地区農業構造改善事業に伴い、字の区域変更を行なうものでございまして、自治法の定めるところにより議会の議決をお願いするものであります。

次に人事関係として、まして固定資産評価審査委員中二名の者が任期満了いたしましたので、その選任に当り議会の同意をお願いしようというものであります。

以上昭和四十二年年度の施政方針並びに予算の大綱について御説明申し上げました。敬して昭和四十一年度の最終補

正予算を提案しておりますので、この際概要だけ御説明
申し上げておきたいと思ひます。

一般会計において補正いたしますものとして、
は給与改定訂による人件費として五百三十五万七千円、
尿処理場において懸案の尿処理場用地購入費として六十万円
を計上して残余の分につけては債務負担処理に於て取り
扱うことといたしました。

その他消化槽清掃のため百十八万円、農林水産業費中、
改善対策特別事業補助金として百九十八万一千円、青果
物集選果施設設置補助金として七十五万円、松倉、
被害木伐採委託金として七十九万七千円、商工費中、

バードセーター設置寄付金として二百万円、土木費におきま
しては県道工事費担金として百六十四万一千円及び、
浦市より市役所に至る市道九号線改良工事費として七十

万円その他地上物件補償料として四十二万七千円等より
歳出補正額は二千一百三十六万一千円となっております。

補正財源といたしましては競輪収入千五十六万七千円、県
支出金三百五十三万四千円臨時地方特種例交付金二百八十七万
五千円その他一般財源をもつて充当しようというものでございます。
その他特別会計の予算補正として国民健康保険に
おいて六十六万七千円休養施設において三百七十四千円、館山
ユースホテルにおいて二十六万、北上水道事業において三十一万
九千円の補正をお願いしようというものであります。

以上をもちまして補正予算の説明を終る次第でござ
います。当初予算補正予算等細部につきましては
議事進行に従いまして私及び関係課長から説明申し
上げたいと思いますので、なにとぞ慎重御審議の上、御
議決くださいますようお願い申し上げます。

なおこの際御了承を得たいんですが、市長名をもって議案の提案をしておりますが、時間の関係を一々お読み上げようと思っております。

えることに御了承願いたいと思います。
はなはだおもしろい御説明で申し分けでございます。
したべ以上申し上げていあうつにかえたいと思います。

(拍手)

議長(田中祿郎君)以上で施政方針を終ります。

この際議案についておはかりしております。ただいま議題になっております各議案は本日はこれが内容の説明のみといふしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって決定されました。日程第三議案第十号。

(書記朗読)

議案第十七号 館山市議会委員会条例の一部を改正する
条例の制定についで

一番(吉田勇治郎君)ただいま上程されました議案第十六号
についで提案者を代表して御説明申し上げたいと思ひ
ます。本案については去る上月十三日の本会議において
議決されました館山市部課設置道条例に伴ひまして館
山市議会の常任委員会に所管する事項を改正した
いと思ひます。今回提案した次第でございます。
なにとぞ満場の御賛成を得たく提案者を代表して
お願い申し上げます。

議長(田中祿郎君) 日程第四 議案第十七号

(書記朗読)

議案第十七号 館山市固定資産評価審査委員会委員

の選任について

人事課長（小沢正治君）人事関係でございまして、人事課から御説明申し上げます。議案の通り安田誠三郎と安西繁右さんが現在の委員でございまして、十三日をもって任期满事になります。過去の実績を見ましても、この方を再びお願いいたしたいと思います。ので地方自治法の規定によりまして、議会の同意をお願いする次第でございします。

議長（田中祿郎君） 日程第五 議案第十番八号

（書記朗読）

議案第十八号、館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

調査課長（高木哲三君）議案第十八号について御説明申し上げます。三十一六条の~~改正で~~の改正でございしますが、これは個人の市

民税の申告手続等の簡素化をはかるために所得税の確定申告を提出する者は個人の市民税の申告書の提出を必要としないということから市民税の申告書を提出する者についての申告書期限は今までは三月二十日まででございましたが所得税の申告書の提出期限と同じ三月十五日とするということとをござります。

議長（田中敬郎君） 日程第六議案第十九号

（書記朗読）

議案第十九号 館山市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について

衛生施設課長（吉田耕一君） 議案十九号につきまして御説明申し上げます。本特別会計条例でござりますが改正の趣旨は館山市の上水道事業特別会計というところでござりますがこの施設につきましては一は単の施設を

そのまゝ受けつゞきまして上水道の運営を市が実施してまゐつたわけでございます。今回上水道事業特別会計を改めまして館山市南部簡易水道事業特別会計に改めようというものでございまして、館山市南部簡易水道事業特別会計につきましては新年度で行なおうとする富崎を中心として簡易水道事業をここに加えまして、この特別会計の一部をこのように改正したいと考えまして上程した次第でございます。

議長（田中祿郎君）日程第七 議案第二十号

（書記朗読）

議案第二十号 館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

衛生施設課長（吉田耕一君）二十号議案につきまして御説明申し上げます。十九号で申し上げました通り宮城の上水道事業

の点につきまして、今度簡易水道という区分名称にして頂く
という考えで上程した次第でございます。

管理設置という面につきましては一条中の「宮城上水道」を
「宮城簡易水道」に改めたい。

二条につきましては給水の区域をはつきりと事業ごとに区別
分いたしたいと考えまして下記の通りになっています。

なお二十五条中にあります従来「簡易水道」にいたし南条
簡易水道を除く」となっております。渡左間及び加賀名
地区簡易水道、鉦切簡易水道に「上水道」にいたし南条簡易水道
を「金」を「宮城簡易水道、南条簡易水道」というふうに改
めたいと考えて上程した次第でございます。

午前十一時五十五分

休憩

午後一時三十六分

再開

議長（田中祿郎君）

午後のお席議員数 二十九名

休憩前に引く続々会議を開きます。

日程第八、議案第二十号

（書記朗読）

議案第二十号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する
る条例の一部を改正する条例の制定について

○財政課長（長谷川広君）議案第二十号について御説明申し上げます。四十二年度住宅といしまして現在建築中の市営住宅を完成後公の施設としておかつ市営住宅の設置及び管理の条例に加えて市営住宅として管理をしていきたいという趣旨のものでございます。

第一の二に「公営住宅法の規定に基く本市の設置する市営

住宅の名称及び位置は別表の通りとする。」ということで現在まで五カ所掲げられておるわけでございますが今回二十戸分を加えて市営住宅として管理をしていきたいということでございます。

位置は元の第二厚生寮の跡で洲の崎航空隊の跡でございます。これを入れますと市営住宅は合計百七十七戸ということになります。

議長(田中旅郎君) 日程第九 議案第二十二号、議案第二十三号を一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第二十二号 館山市厚生年金被保険者休養施設設置条例一部を改正する条例の制定について

議案第二十三号 館山市厚生年金被保険者休養施設近代化基金の設置及び管理に関する条例

例の制定について

商工観光課長（小沢正右君）議案第二十五号及び二十六号について御
説明申し上げます。

第二十五号に關しましては鳩山社の料金引き上げの改正でございます。
利用料の種別等につきましてはその通りでございますが、ただ
休憩料金の個人別と室の種別にやうであるわけでございますが、これ
を今回一人単位一休に統一しようというものでございます。

利用料に關しましては、制度として一応全国の国民宿舎の管理者
会議の要請に基いて厚生省が大蔵省との折衝を待って限度額を
通知してよろすわけでございますが、今回の改正措置に關しまして
は黒字を出した国民宿舎に於てはなるべく改正を遅らせてもらひ
たいということが含まれてありまして、早いところは十月一日からやつてお
るところもございます。千葉県下一斉に四月一日からというところで
したいと思ひます。一般中学校生徒、小学校及びそれ以外の値上
りでございます。暖房料に關しましては電気料については後

動きませんので火ばちが薪炭の値上り等によりまして従前三十円を五十円に引き上げようというものでござります。

休憩料金につきましては、今まで百五十円程度で料金が定められておりましたものを今般五十円の引き上げということにござります。

次に議案第二十三号でございますが施設が木造であります関係からなるべく早い機会に準備金と申しますが大改修あるいは改築等に備えて剰余金の積み立てを行なう計画であったのでござります。がなかなか方針が確定しませんので、このびになつておりましたけれども、今回一応年間百万単位の積み立てを実施して参りますための条例案でございます。

目的は第一条に示しますように、こうした形で積み立てをして参りたい。その管理に關しましては、嚴重にもっとも確實な方針で、さらに運用益金につきましては、積金利子、これを全部基金に積

み立てていくという形を取りたいと考えておるわけでございます。

第五条の関係でございますが現在のところ別段予定しておるわけではございませんが、最悪の場合このような形がどうしてもほしいときに条例規定がございませんと実施できませぬので一応繰りのえ運用の規定を取り入れております。

その他細部にわたっては規則で定めるといふことが第六条でございます。附則として第二項財政調整基金の設置管理及び処理に関する条例が昭和三十九年条例第三十号で公布されておりますが本条例とは直接関係がございませぬけれども一応地方財政法あるいは地方自治法の基金の考え方のらいまましてこの際この基金の条例を廃止したいものでござい
ます。

議長(田中祿郎君)

日程第十 議案第二十四号

(書記朗読)

議案第二十四号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例
の制定について

人事課長(小沢正治君) 議案第二十四号について御説明申
上げます。

第二条の二でございすがいわけゆるキエツクオフの関係でござい
ます。昨年来慎重に審議して参ったわけでありすがいわけゆる
館山市役所の現在の実態から参りましてこのよう形を給
料の^天をすることを運用上^天妥当であるという結論に達
しまして条例の甲にこうした差し引き規定を設けようとい
うものでございす。

現在職員組合が各組合員その他から差し引きを實施してお
りまして一カ月の延滞間係は約二千五百口三十種類以上に上るお

わけでございますが、これを地方公務員法の規定から参りまして条例によらないで操作した場合、これだけたくさんのものを取資全員で差し引いてごたつくというので条例によって天引きを行なうことに踏み印つたわけでございます。

第六条の三の管理取手当でございますが、これも常勤対策の二環としてまして現在超勤勤務手当の額が約百分の八で予定されておる段階からこれら等のバランスを考えた上で百分の八を管理取手当として支給したい。

従いまして管理手当の支給を受ける取資はそれぞれ超勤休日給夜勤手当の支給は受けられないというところでございます。

第七条第三項の関係でございますが、これは通勤手当の肉休でございます。現在の「六百円」を「千円」に、「千円」を「千六百円」と

いうことは通勤の常備機関の利用の場合、今までは千円であつたわけですが、千円を越える場合にはその差額の二分の一が五百円までは支給できる。合計「千六百円」であつたものを今度は限度額を「千六百円」として千六百円を越える場合に差額の二分の一の限度額を「八百円」最高限度額を千六百円から二千四百円に引き上げられるわけであつて、さうです。

それから自転車を含めて行なう場合には一応交通機関の料金が「千六百円」という限度があつて、さういふのを下回る場合には一応「五百円」を限度とする。

自転車通勤、バイク通勤の場合に「五百円」が「五百八十円」ということとございます。

第十三条第二項八号というのは特に殊勤務でございまして保険料の徴収手当てでございまして実質的にはするでにこの手当ては実施されておられますので、この際条例を整備して現実と符合さ

であるというものでござります。

別表第一、別表第二は行政取給料表、教育取給料表、幼稚園取の給料表でござります。

これは国家公務員に準じて館山市で取り扱ってまいらぬとありまゝ実施してまいります。

基本的には昨年の九月一日にさか上つて実施するわけでござりまするが、二条の二給与からの控除、六条の三管理取手当これらについては新年度から実施するわけでござりまする。

附則の二項、三項、四項につきましては常にこうして給与の切りかえがなされますが将来を予定して実施されないために過去にうへ上給関係の切りかえの日から条例施行の日までの間にいろいろ等級の移動、新しく採用されて入る関係、これらが引当として給与との給与の平均衡を失ひなうためのものでござりまする。すべて従前行なわれ、通りのものでござりまする。

それと同時にこうして改正が行なわれますために従前支払われ
した給与に同じまゝではこの条例の適用によります切りかえ日
から現在まで支払われたものはこの条例によります月払いとみな
すのだというのでござります。以上でござります。

議長（田中祿郎君）

日程第七 議案第二十五号

（書記朗読）

議案第二十五号 千葉県旧市町村思給組合資産管理組合

規約の一部を改正する規約の制定について

人事課長（小沢正治君）議案第二十五号について御説明申し上げ
ます。これは失済組合法の施行前に千葉県に市町村
職員思給組合がござりまして、館山市も加入しておったので
ござります。失済組合法の施行によりまして思給組合の
加入市町村が失済組合の市町村と一致しないために、このよう

形で残されたいのでございす。その規約の中が市町村の名称の変更による改正でございす。

御案内の通り昭和四十二年一月一日八千代町・流山町が市制を施行してより市になったのと旭市の海上町と場組合が千葉県連合と畜場組合というふうに昨年の三月三十日にかわったわけでございす。

これを組合加入市町村の議会の議決を経まして、管理組合規約を改正する必要が生じております関係上、今般提案した次第でございす。

議長（田中祿郎君）

日程第十一 議案第二十六号

（書記朗読）

議案第二十六号 館山市立幼稚園保育料金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

。教務庶務課長（干場伊右衛門君）

議案第二十六号について説明申し上げます。

幼稚園の保育料は昭和三十九年の四月一日から八百円を千円に改正され、
しく現在に至っておりまして一般財源の持ち出しは三十九年度が六百
二百万、四十年年度五百五十万、四十一年度が九百四十万となっております。
四十一年度を千円としますと一般財源持ち出しは千六百二十万となります。
ゆゑ今回、千二百円に条例改正あるを願ひました。まして持ち出し額を
約千七百五十万に見当り幼稚園の充実に必要だといふことを考えている次
第でございます。

なお県下の各市の幼稚園の使用料の状況は松戸千五百円、
習志野千三百円、市原千円等となっております。

議長（田中敏郎君）

日程第十三 議案第二十七号

（書記朗読）

議案第二十七号 館山市清掃条例の一部を改正する条例の制

定につて

・衛生施設課長（吉田耕一君）

議案第二十七号につて御説明申し上げます。

清掃条例の十五条に別表の手数料を徴収するの点と云ふことが規定されておるのであります。そのうちの別表第一を改正しようというものでござります。

現在ゴミの一般指定の収集料金や中内と規定されておるのであります。従来埋め立て処理によりましてゴミ処理をしておつたのでござります。今日ゴミの焼却炉の完成を見て現在乾燥期間を進めておるわけでござります。本年三月一日よりこれも終了いたしますので

四月一日から完全稼業に移りにい。このように考えざるわけではござりません。完全処理の施設等も多大の額を投入して作つたものでござります。今後とも運営上いろいろ経費の支出もあるという観点等

から他市等の料金も十分参酌し、お諮問機関等の御意見も聴
きまして、今日、今までの「四十円」を「六十円」に改めたい、このように考える
ものでござります。

それからの「衛生処理場搬入手数料」でござります。従来「一般及
び許可業者」一、八キロリットル三百円」と規定してあったのがあります。が、
私ども収集する以外に事業所あるいは個人等から直接搬入される
ものもあるわけをござりまして、そういうものを四の「手数料」に加えま
して、今回「一〇〇キログラム五十円」を徴収するという規定を加えようとする
ものでござりまして、なおこの算定の基礎でござります。が、一般家庭
の容器収集の六十円を基礎として大体この程度が適正でないかと
いう考え方で、今回改正をお願いしようというものでござります。

議長（田中祿郎君）

日程五、議案第二十八号

（書記朗読）

議案第二十号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する

条例の制定につて

保健衛生課長（地 日 亮 山 君）

議案第二十号につて御説明申し上げます。

保健条例の一部改正でございますが、条例中第六条の「三丁内」を「三丁内に改めるとしよう」とござります。これは助産費を増額でございます。保険給付は過去において年々給付率の引き上げ等を行なつて参つてまいりました。ござります。助産費、葬祭費、育見手当金等の給付につきましても、昭和三十七年度に現行に改正して、そのままでありますので、昭和四十七年度から助産費につて「三丁内」を「三丁内に引き上げよう」というものでござります。

十三条の改正でございますが、保険条例中に財産管理の方法としてあるにわけをござりますが、これは地方自治法にすべて含まれてゐるものでありますので、削除する必要はないという指導を受け、こので

今回条文の整備上これを削除したわけでございます。

議長（田中祿郎君）

日程第十五 議案第三十九

（書記朗読）

議案第三十九 富山市福祉事務所設置条例の制定について
福祉事務所長（鶴沢貴寛君）

議案第三十九号について御説明申し上げます。

現在制定されております富山市社会福祉事務所条例の中
には社会福祉事業法にいう条例必置事項のほか細かい点まで
規定してありますので、これを今回社会福祉事業法に規定されて
おります条例に定めなければならぬ事項だけを条例に上げ
ましてあと細かいとは規定に定めるという整正備をしようという
ものでございます。

第一条は設置の条文でございます。

第二条 名称位置 第三条 取員の定数、これだけは条例
で規定しなければならぬということとをうたわれておりましてその
他の細かい事項は規則で定めようというものがござります。
なおただいま制定されております館山市社会福祉事務所条例
はこれを廃止するわけでございます。

名称も現在の条例では社会福祉事務所となっておりますが、
今回「館山市福祉事務所」と変更するわけでございます。

・議長（田中祿郎君）

日程第十六 議案第三十号

（書記朗読）

議案三十一号 館山市附属機関設置条例の制定について

・庶務課長（山口実吉）

議案三十一号についての説明でございますが、これは従来地方自治
法百三十八条の四第三項により個々の条例により設置されておた

ものでござりまする。これを整理統一一本化して新たに本条例を制定しようというものでござりまする。

なお別表の最後に新たに新設しようとする館山市交通安全対策協議会でござりまする。これは本市の交通の現状から交通事故の防止は緊急と考えられるので、これらの条例を策定して、まして交通事故防止に対する諸問題を審議・調査していただく機関でござりまする。

第一条 目的でござりまする。第二条 附属機関の定義でござりまする。第三条 整理統合一本化した各種附属機関についてその担任する事務・組織・委員の構成・定数及び任期、これらは別表によつて示されるのでござりまする。

第四条 会長の選任方法でござりまする。会長が欠けた場合、副会長の職務代理を規定しております。

次に委員の任命でござりまする。市長が任命または委嘱し

ありますが、任命は取員が委員になつた場合、特別取の方等は
委嘱といひます。

第六条は会議でござります。会議は半数以上の出席で
開くことが出来る。第七条は会議の運営について特に定めら
ないのでござります。

第八条はこの条例と性質を異にするものをここに明記してま
して従来通りの条例によつて措置していいものではない
です。

第九条はこの条例のほか特に必要なことは市長が定めよう
こととござります。附則でござりますが、二項の六までは本条
例によりまして含まれてゐるので従来この条例を廃止しようとい
うのでござります。

三、四にござります。この条文の中に現れてゐる関係上、それらの
字句を整備しようといふものでござります。

第五項でございますが、館山市特別取組等審議条例の中に従来秘書課であったものを、今日人事課が設置されたので人事課を設置していただくようにいたします。

次に別表でございしますが、ただ今説明いたしましただけの内容のものをここに整理統合いたしまして、一目瞭然とすまうように処理したものでございます。

議長（田中祿郎君）

日程第十七 議案第三十号

（書 記 朗 読）

議案第三十号 館山市内字区域及び名称の変更について

。農林水産課長（伊藤幸太郎君）

議案第三十号について御説明申し上げます。

本案は山本・安布里地区に実施しております構造改善事業が完了いたしました結果、大字及び字区域の変更と字名の

の変更をお願いいたしたい。それにつきまゝ議会の同意をお願いいたしたいというわけでございます。

議案の次に各一筆ごとの調書とさらに区域におきます図面が添付しておりますがこれにより御説明申し上げます。

この図面によりますと従前の大字山本・安布里の境界が直線になりまして今までは両大字区域の出入りがございましてそれらを整理いたしますと同時に小字名についても整理いたします。まして大きくいたしましたカッコで閉じております。字名に統一いたしたいということでございます。

従前幾つかございます。附した小字名もカッコにありますように整理して名称を変更いたしたいというものであります。

大体以上が本案でございますが各調書につきまゝは、一筆ごとのものでございますので省略させていただきますと思います。

議長（田中祿郎君）

暫時休憩いたします。

午後二時四十分

休憩

午後三時十五分

再開

議長（田中祿郎君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第十八 議案第十号

（書記朗読）

議案第十号 昭和四十四年度館山市一般会計補正予算（第六号）
財政課長（長谷川広治君）

議案第十号について御説明申し上げます。昭和四十四年度の六回目の補正予算でございます。

今回の補正におきまして二千二百三十六万一千円を減額いたしました。

歳入歳出ともに八億四千八百三十万六千円といたしたいというものでござります。

減額といたします。おもな理由といたしましては、のちほど細かく申し上げますが、市民館の計画変更に伴います工事量及び起債等の関係から二千五百万円の起債額の減少とれから特別財源といたしまして、財政調整整備基金立て金の千三百万円を計上いたしましたものでござります。この市民館の関係から取りくずす必要がない。

四十二年度に持ち越したためにとれやれ更正するものがおもなものでござります。

歳出の減額も同じでござります。この結果特定財源と一般財源の比較は一般財源が六四・八％ということになります。

当初予算から比べますと約七％はより一般財源が向上いたしました。ります。補正及び追加の内容は三ページからの補正に記載してござります。すが、細かくは明細書により御説明申し上げます。

なお第二條として継続費の補正をお願いいたしました。これはただいま申し上げました市民センターの建設費が一部設計変更等によりまして補正をいたさなければならぬので、減額の補正及び年割額の補正をいたしまして、補正前の総額が一億五千七十五万円を今回補正いたしました二億千八百三万ということにいたしましたわけでございます。

年割額は四十一年、四十二年、四十三年度として示してある数字でございます。なお三條として債務負担行為の補正をお願いしてございます。

今回二件お願いしてあります。まず、尿処理場の消化槽のガス攪拌装置改修工事、これも工事日数、諸状況から本年度中におさましまして、債務負担行為で行ない、それを四十二年度で二百五十万円を限度として支私したい。かように考えたものでございます。

なお、尿処理場の敷地購入費、今回六十万円追加をいたしてございます。さらに四十二年度におさまして百四十八万円を限度として、完全な敷地の買収をいたしたい。こういう計画のもとに債務負担行為として

補正しております。

さらに四条で地方債の補正をいたしました。これは先ほど申し上げました市民センターの建設工事関係の補正でございます。工事量等の関係から起債の限度額と申します。内示が四十七年度一千万というところにきまりましたので当初予算に計上いたしました。三千五百万円を一千万円に補正いたしました。かように考えたわけでございます。

ニニベジの事項別明細書歳出から申し上げます。

人件費につきましては人事課長から申し上げますので、これを除きまして申し上げます。

議会費におきまして三十一万二千円追加いたしました。人件費を除きますと需要費で四万三千円、本年度の残余期間に使用した予定の金額でございます。

総務費関係で総額四十九万九千六百円の減額でございますが、人件費を除きますと一般管理費におきまして七十六千円、これがおもなものは十節

の交際費におきまして市長交際費市交際費それぞれ三十万ずつ六十
万計上しております。

その他十九節におきまして退職手当組合員税金として五十万減額いたし
ました。なお旅費等も残余の支払額を考慮いたしまして十二万更正をい
たしております。これはそれぞれ他の財源に充てるための減額でござ
います。財政管理費一万円旅費として追加いたしました。本年度の旅
費の不足額四百合計管理費三万三千円追加これは来年度使用
いたします諸伝票の印刷費概算十方円でございすので、それを
追加計上いたしまして、払い込みの手数料が現在の状況から
六万七千円程度減額可能でございすので同額を更正したわけ
でございす。

五日財産管理費におきまして二万二千円減額しております。
これは七節の賃金から十二節の役務費の関係でございす。が、
市有財産の管理を確定にということとで四十一年度四月より計画

したわけでございますが、臨時取員等の人員の関係から仕事
が遅れたために借金として九万円以下旅費、需用費等につい
ては計画が延期したための減額でございます。

主節役務費十五万の減 現在のところこの程度節約できるといふので
一般財源に充てるために更正しております。

十五節工事請買費十七万五千円 今回警察官駐在所として市有建物
でございします神戸豊務九重の三駐在所が雨漏りあるいは一部
老朽をいたしまして何かと修理してほしいという要請もあります
半額を県から補助するといふこともはまり決まったために総額
二十五万五千円で修理をいたす計画でございます。

十五節に若干の予算残を見込んでおりますので十七万五千円を追加
計上したすわけでございます。

四ページ十二款の公債費といたしまして十七万四千円の減額更正をしてお
ります。これは利子の八十九万六千円が焼却場の工事関係が若干遅

れたためにその借入れを延ばしたために一時借入金の子が若干、
うかびましたのでそれとさらに起債の子が八十九万六千円を削りま
して、元金の八十万二千円に追加いたしました。四十二年の三月三十一日現在
の償還額に合わせたわけでございます。以上でございます。

人事課長（小沢正治君）

議案第百五十一般会計の補正予算におきます人件費関係に
ついて御説明申し上げます。

四四ページ給与費明細書でございますが、これは補正予算の款項
目別のもつを一括してここに集計したものでございまして、今回の補正
に特別取の報酬で九万三千円、減額でございます。

これは投票管理者の報酬あるいは公民館関係の特別取の
減員等の関係で九万三千円の減額となっております。

次に給料関係でございますが、先ほど提案説明を申し上げま
した通り給与条例の一部改正をお認めいただいたものといたしまして、予算

でございまして一般取の平均引き上げ率が幼稚園を含めまして
て国家公務員の基準が六%の引き上げということになってお
ります。但し、館山市取員の実際上の引き上げは約六・六%にな
ります。従いましてこの実績が二千百九十円強ということござい
まして一般会計におきまする実績額で約八十二万円前後の
増額になるわけでございます。

これによりまして九月にさか上って実施したすとなりますと
給料におきまする予算上の増額が百九十八万九千円の増額補
正をお願いすることになりまして補正後の合計が一億五千八百二十
六万二千円となるわけでございます。

次に取員手当でございしますが、大休期手当の関係の増額が
出て参るわけでございますが、それやれ各手当別の補正額が出て
おりますけれどもこれらの合計で三百八十四万円の増額になるわけ
でございます。

手当と給料の合計で四百九十万五千円の追加となりまして、給与改定に伴います共済負担金が四十五万三千円の増となりまして、合計五百三十五万七千円の追加ということでございます。

こういう追加によりまして最終的な予算并額といたしましては二千六十一万六千円、給料で一億五千八百二十六万二千円、職員手当が八百四十三万三千円となりまして共済費の合計が千六百七十七万三千円、すべてを合計では二億八千九十四万四千円となるわけでございます。

補正予算のうち職員手当の内訳といたしまして今度の補正が超勤、勤勉がそれやれ減額になっておりますが、これはトータルが、このように出てくるわけでございまして今度の給与改定とは別段関係ございません。

特別会計におきましても大体このような関係でただ問題は年間の職員の異動によりまして、高額者と低額者の異動に

よって予算上には逆に減額になるという形も出て参ります。関係で必ずしもすべてこの率に応じて増額されておられないという現象が生じております。

人件関係では、その他総務管理費の一日一般管理費におきまして、退取手当組合負担金五十万減額しております。

これは当初予算におきまして千五百二十五万八千円を計上したものでございまして、予算が通過する前後にいたしまして、退取手当組合の負担金率が百分七から百分六に下りまして、その関係で五十万円補正が可能になりましたので、ここに追加財源として減額したのでございします。

続きまして事務改革推進費におきまして、旅費八万円減額、これは取員の研修旅費として四十五万五千円繰入したのでございします。また、大抵七万七千円程度余る見込みになりました。

さらに消耗品関係で八万円、これは補正財源とする次でござい

ます。

備品購入に三万七千円の追加、これは現在校計してあります。備品管理に關しましては積極的に完全な管理をカードシステムに切りかえて確立しようという考え方で大体原案はなつて実施段階に入る予定になつておりますが、このために保管用のキャビネット一個購入に、
いというものでござります。

続まして第七款商工費でござります。

二日商工振興費において負担金八千円減額して補償補てん及び賠償金として八千円の追加をお願いするわけでござります。

これは商工関係の連絡協議会の負担金を補正して千葉県補償協会に對します。中小企業融資融資の代弁済八千円の一割八千円を支出しようとするものでござります。これは三十五年の十二月二十五万円貸し付けの業者が八万を残して補償協会に代弁済を受けたいという関係でござります。

次に観光費で七節の借金以下十九節の買掛金補助及び交付金
の間にそれれ減額補正をお願いすることになりまして、たが
これは夏の海岸対策に関しまして当初相当大幅にキャンプ場対
策から海水浴の海岸体制に關して万全を期して予算をお願いし
わけをございしますが、実施に當りまして、海岸清掃に關しましては
予定を十日早く中止したために清掃人夫の賃金が浮いて参ります
ことそれれからおもなものといたしましては、需用費におきます
二十七万五千円が海岸關係の消耗品關係で約五万円宣伝關係に
おきましてパンフレット写真の引き伸し六十二万の予算をお願いし
わけをございしますが、入札その他で八万円が浮いてきたこと、修繕料
におきまして夏の各地施設の二十四万三千円を計上したわけですが、
一応修繕を行なわねばで済みまして、という形もございまして、この
關係で十万円浮きまして、この關係が二十七万五千円減額が可能で
ございしますので、これを補正財源といたす次第でございます。

それより役務費の八万五千円、これは左造料、新聞広告関係、毎年十数回実施して参りましてけれども、四十一年度各新聞社にお願いして積極的に行なうものについて関係で、こゝで六万円、夏のみどりつけ経費で二万五千円、浮かせて八万五千円の減額、委託料の四万七千円につきましては監視船、その他工事請負担費につきましては、マンパ対策として管理事務所、便所、炊事施設等で五十一万円を予定したわけでございますが、これも実施に当りましては、現状に合わせ、工事を実施いたしました関係で十五万八千円の残を生じておりますので、これも補正財源とするものであります。

二十六節の寄付金につきましては、芳神社の裏山に泉がバードセーターを建設するということと、土地の買収費、樹木の補償費を含めて、大体県の一般予算におきまして千七百三十万円前後の投資を行なうことになりまして、休まずでござりまする、この入札は完了して、工事は着々と進んでおる段階になっておりますが、これに関して地元として一応

二百万円を寄付したいというものでございます。

以上でございます。

庶務課長（山口実彦）

二四ページ二目文書広報費につきまして四十五万三千円の裁 おもなものでしたしまして、需要費におよび三十三万、これは印刷費におきまして外注がなかった関係でございます。

士節後務費主の更正いたしました。これは各課に属しない文書を庶務課で発送してあるものでございますが、これらの文書がなかった関係で更正したものでございます。

選管書記長（大嶋重義君）

二十六ページ四項選挙費について申し上げます。

一目選挙管理委員会費におきまして、これは先ほど説明がありましたので省略いたします。

二目選挙啓発費で一万七千円の減額、選挙の啓発費につきまして、中

時啓発と重点啓発事業の二つに分れておるのでございますが、今日は常時啓発は当初二十万二千円を計上したのでございしますが、そのうち県の委託事業費として十萬五千円計上したところが、年度中途においてこれが補助事業になりまして、そのために補助額一萬七千円の減額見込みとなりましたので、その一萬七千円の減額分を八節の報償費におよそ一萬二千円、県費におよそ五千円、それだけ更正しようというものでござい
ます。

次に五目の衆議院と最高裁判所の国民審査費でございますが、三萬五千円の追加でございします。衆議院議員選挙費におきましては委託費として当初百八十一万二千円で予定したのでございしますが、選挙が終了して県の内示が約百八十三万七千円程度になる見込みでございしますので、その差額を補正するわけでございします。

この補正額と各節の更正財源を合わせまして、備品購入費に十二萬一千円の追加をお願いするわけでございします。この備品のおもなものは投票

箱、圖書類その他の選舉事務用具類をお願いしたいものでございます。
六目の知事選挙と県会議員の選挙費でございますが、五十三万の新たに
補正でございます。これらの二つの選挙につきましても、四月十五日執行に
決定してあるものでございます。しかし三月二十五日、二十五日に告示になりま
すので選挙としても準備体別にやるわけでございます。

そこで準備経費のみにつきましても、四十年度の補正に^おきまして
追加をお願いする次第でございます。

内訳としておまなものは純然たる選挙事務とポスター掲示場の設置費
でございます。その中で土節、所用、備置費の消耗品に十四万一千円計と
してございますが、この中には知事と県議のポスター掲示板の費用が十万円
含まれております。

十五節の工事請負費におよそ七万円、これも同じく知事と県議のポスター掲示
場の設置と撤去工事を含めた額でございます。

十八節の備品で五万円、これは投票記載台でございます。よだ三分の一位のもの

が木製でございまして、選管としても適当な金属製のものに代えていく方針を取っておりますので、今回五合ほど金属製のものを購入したいというものでござい
ます。なお今日の五十三万につきましては、王頼果の委託金によるもので
なっておりますものなでございします。でございます。願います。

・福祉事務所長(鶴沢貴寛君)

三款民生費について御説明申し上げます。

一、目社会福祉事務費におきまして九万二千円の減額でございします。

内容におきましては十六節役務費におきまして二十万の減額、これは老人
健康課審査の手数料料でございします。当初二十九万七千円を見込んで
いたのですが、受診者が少なく、一般の健康審査で百三十七名精
査審査で七十五名の受診者があっただけでございします。この二十万
円を減額したいというものでございします。

十六節負担金補助及び交付金におきまして二十六万円を計上いたしま
した。これは養老年金五万円、老人クラブ補助金二十万円、老人クラブの補助

金は年度当初初二十四クラブで四十三万二千円を計上したのでございますが四月一日現在のクラブ数が二十七ございまして、この三クラブ分の補助金と年度中途におきまして民生委員、区長さん等の協力を得てクラブが續々と結成されたのでございいます。

中途における老人クラブについては、県の補助金がございせんので、この結成補助として市独自で月千五百円程度の補助をしようということになりまして、その分を三クラブ見まして、三万六千円計上したわけでございいます。

二目の社会福祉施設費におきまして十七万円の減額、これは低所得者の貸し付け金でございいます。当初二十万円を予定したのでございますが、現在までにこの借り受けをした者が四人で二万円でございいます。でございいますので、三月一ぱいの予定をいたしまして十七万円を減額したわけでございいます。

二項の見童福祉費の一目見童福祉総務費において二十一万二千円の

補正でございしますが、この中で一節需用費で一万四千円計上したのでございしますが、これは法規の追録等の不足額でございします。

二目児童措置費五十二万二千円を計上いたしました。これは私立の保育園に対しまする児童措置の委託料でございしますが、ベニアップによります措置費の増額分でございします。

三目児童福祉施設費におきまして、十四万三千円の増額でございしますが、貸金で十万三千円、十九節の負担金補助及び交付金で五万円計上いたしました。この五万円は児童遊園地遊具補助金として神明町、船形の西浜区に予定いたしました。

三項生活保護費の生活保護総務費におきまして、五万三千円の減額、このうち八節、九節、十節は生活保護世帯の実態調査でございします。合計は一万七千円、これは全額県から補助といたしまして、計上したものでございします。

二目の扶助費におきまして、百万円の減額、これは当初予定いたしました。

生活保護費の受給者の数が減ったことと医療扶助費の内容におきまして見込みより少なかったというところで百万円の減額を見たわけでございます。以上でございます。

衛生施設課長（吉田耕一君）

誤植がございましたので訂正願いたいと思っております。

二項清掃費 二目じんかい処理費 七節賃金 三万五千五百円（角）
ておりますのを六千六百元に訂正願います。

衛生統務費でございますが、一八節備品購入費三万六千円、これは衆議院の自転車が走朽化して使用に耐えなくなりしましたので、中古車を購入してこの事業を進めていきたいということでお願いいたしたわけでございます。

二目の看掃費でじんかい処理費賃金六千円内の減額でございますが、当初焼却場ができて作業員を雇い入れる考えでお願いしたわけでございますが、乾燥期間が長かったために現員でやりくりをまかなってきた

という、この六十六万円減額いたしました。使用料及び賃借料で四十万円お願いたします。

これは現在まだ一部捨てております埋め立て用の土砂を大体今月（一）ほど整理をしていきたい。このように考えまして、これに要しますフルの借り上げ料でございます。

十五節工事清買費でございますが、焼却場の整備でございますが、ニメートルにわたってゴミを埋めてあるところをございまして、沈下して参りましたので、これを整備したいということで二十万をお願いするわけでございます。

次にし尿処理の十五節におきまして十五万円、し尿消化槽のスカムがたふさんたよって機能が悪いというようにいかなったということでスカムを取り除く工事費十五万円をございます。

十四節使用料、賃借料でも二十万円、スカムを取り除きましたあとのお金を捨てなくてはならないという関係からなかなか千五百トン

以上の量がございますので、適当な捨て場も陸上にはございませんので海上投棄をいたいたいということで船の雇い上げ二航海を実施いたすので、それが五十二万円、船までの搬出、バモームの借り上げ料五十一万円願います、というものでございます。

公有財産購入費六十六万円計上しておりますが、尿処理場敷地の購入費も本年度六十六万円を内買担として支出いたしたい。なお、燃費等につきましては、これは財政課長の説明により、御了承願いたいと思っております。

保健衛生課長（沢田亮山君）

四款衛生費二項の保健衛生費の中の二目予防費におきまして、計百十二万の減額補正でございます。

三目の環境衛生費におきまして、七万六千円の減額補正でございます。いずれも各節にそれぞれ更正いたします金額が計上しております。すのぶな、お内容につきましても説明欄に記載してある通りでございます。これは主として結核検診の当初予定した人数だけ

受診者の方がたために生じます減額並に予防接種料を自
自動注射器を購入する予定でございましたが、都合によりこれ
を取りやめました関係で生じた余剰金でございます。

なおこの際訂正いたされたいは十二節の委託料の説明欄の
金額のところに三角が漏れておりますので御訂正いたされたい
と思えます。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）

農林水産業費につきまして御説明申し上げます。

農業振興費でございます。今日二百七十一万五千円の追加を願
いするわけでございますが、おもなものといたしましては、土地改良
事業、利子補給金まで三角でございますが、これは各種買付金の減額
見合いの補助金の減額等に伴います減額でございます。

次に追加の分でございますが、シンカ類の防除補助金三十四万円、昨年
異常発生いたしましたシンカに対して見合いの助成が参ります。

ので市費を若干投じまして三十四万支出いたしたいということでございます。

次に稲作改善対策特別補助金でございますが、百九十八万一千円、県からの助成が決定いたしました。

これは米の予約米の数量に対して一俵当り四十円余の割合によつてやつておりますが、これの使い道としてはいろいろござりまするが、全地域的に考えますと各種防除機を購入いたしまして、各地域ごとには配分していきたいという事業を予定しております。

事業主体は農協にお願いして、この範囲以内で防除機を購入ををお願いしたいということでございます。

次に青果物の補助金七十五万、これは今日豊後地区におきまして、果実産所を建設することになり、県費の補助七十五万が決定したのでここに同額計上したものでござりまする。

暗渠排水の補修工事補助金十五万でございますが、これは谷藤原

におきましての暗渠排水の相当老朽化しましてたのになつておりますので全面的にこれを補修して機能を發揮させたいということで二十五万円を今回計上したものでございます。

次の畜産事業費でございますが三百六十万の減額でございます。

これは小規模草地の改良事業と緊急飼料の作物事業とこれらが県の補助規定の改正等によりまして中止になつたわけでございます。ただし小規模草地の事業につきましては、当初約十六町歩程度計画したわけでございますが、実際の面におきましては三町歩程度の実施にとどまつたわけでございますので、その分の減額額をここに計上したわけでございます。

次に林業費におきましては五十七万七千円の追加でございますが、林特に大きいものとしましては需用費において二十八万の減額でございます。薬剤購入費の減額に伴うものがございます。委託料として七十九万七千円これは松食、虫の委託料でございます。

ます。

これは最終的に県の認定を受けました者が決りましたのでその認定に基づきまして県の補助額の決定いたしましたのでそれに合わせて今回七十九万七千円を追加しようというわけでございます。

次の三項の水産業費でございます。まず買担金補助額でございますが、磯沿岸漁業の改善事業におきまして百万円余の減額でございます。それからやはり工事の縮小に伴います減額分でございます。それから漁協合併の協議会補助二十万の追加これは御承知の通り合併促進をはかっておりますのでございます。当初お願いたしました補助金では不足見込があるわけでございますので、今日二十万をお願いしたいというものでござります。

それから次の漁港管理費におきまして三角でございますけれども、工費事縮小に伴なう減額でございます。

土木課長（新井重助君）

土木費につきまして御説明申し上げます。

三目の道路新設改良費におきまして百六十四万一千内の追加でございますが、これは十九節の負担金、県道改良事業、その他負担金でございます。

負担金の増加は古茂町の道路改良、大戸上真倉の排水、亀ヶ原の排水路、正木の排水路工事等の負担金でございます。街路工事費で七十九万九千内の減額、これは鏡浦亭のところから市役所に至る道路改修事業でございます。

当初見込みいたしたよりつぶれ地が少なくなったということでそれから地元の協力が非常に強いので十七節公有財産購入費におきまして減額しております。工事請負費七十九万の追加、これは舗装をやりますので路盤の補強をやった方が経済的だ、ということとで路盤工事をやりたいというものでございます。

なお十九箇の負担金でございますが、これは邦古地先の
舗装工事、館山地先の改良工事におきます県工事の負担額の
減額でございます。

補償及び補てん金、これは先ほど申し上げました地上物件
が当初見込みましたものより少かったということであつて、
五十一万七千円の追加でございます。

四項、公園費におきまして七十一万五千円の減額でございますが、
これは休暇村施設、北条海岸施設等の公園事業費の確定
いたしまして七十一万五千円の不用額が出たので減額しております。

・教育委員事務課長（干場伊工門 君）

教育費について御説明申し上げます。

教育総務費の事務局費で六十八万六千円の補正でございますが、
人件費と十二箇委託料十万円、これは北条小学校関係の敷地購入
のために、開港公社に委託しまして購入関係の事務費等に充てる

ものでありまして十万円お願ひしたものであります。

二項小学校費で二万二千円の追加、七節貸金で十万七千円、これは神戸小学校の用務員の年度中途でやめまして、現在臨時を雇っております。その貸金でございます。

十七節公有財産購入費卅三十九万円、これは神戸小学校の現在校庭になっておるところに伊藤達郎の土地がござりまするが、これを買ってもらいたいという要請がありましたので、ここにお願ひした次第でございます。百七十七坪でございます。

次に教育振興費卅三万四千円の追加、八節報償費二万四千円の追加、これは講師謝礼が二万六千円余りますのでそれと同時に館山小学校のTBS子供音楽コンクール東日本大会に出場いたしましたので、その関係の汽車賃、宿泊、楽器輸送費等十二万円かかったのでございます。まするが、そのうちTBSから二万五千円補助がありまして、残額十万円の二分の一を補助したいというものであります。

次に中学校費百七十一万一千円の補正でございますが、西岬中学校は四千七百六十五坪あるのでございますが、今回財務部と賃貸契約を結びまして四十二年度以前の分、四十二年度分合めしてお願ひしたわけでございます。

十五節工事請負費、これは房南中学校の修理、小破修理ととどめて今度新築することになった次才でございます。

四〇ページ十五節工事請負費、十一万五千円の減額は四甲の渡り廊下、西岬中の玄関等の入札の結果残額を補正したものでございます。

五項の幼稚園費二十九万八千円でございますが、人件費と、備品購入費五万七千円、これは北条幼稚園の移動式の焼却炉を購入するわけでございまして。

六項の社会教育費、市民センターの建設二千二百九十一万円の更正でございますが、先ほど継続費の補正関係で説明されましたように、今年、これだけを減額して二万七千円としたものでございます。

財政課長（長谷川広治君）

以上歳出差し引き合計額が二千二百三十六万二千円の減額に相なります。続ぎまして歳入の御説明を申し上げます。

今日市税におきまして五百二十五万四千円追加計上いたしたものが、市民税等につきましては相当大はばに減額をいたしてあります。四上年度の予算編成時点におきましてその時点の税法上のものであったわけでございますが、四上年度に入りまして税法の改正がございまして一部減額を見ざるを得なくなったわけでございますが、そのかわりとして臨時地方特例交付金という制度がございましてそれに半分ほどかたわりのという国の意見でございします。市民税におきまして九百二十六万六千円、固定資産税におきましては税法上の改正から増額を認めまして六百七十八万三千円ということに相なります。

各節ごとの金額につきましては事項別明細書で御了承いたださ

たいと思います。

固定資産税の中の国有資産等、所在市町村交付金が確定しまして九百六十一万三千円でございますので、百四十六万三千円を追加しております。

自動車税におきましては、最近大型化して市税として入る車が少なくなっておりますので、現在の調定額から考えまして二十五万円を減額した次第でございます。

たばこ消費税、電記ガス税におきましては、それぞれ各節に記載してございます金額が三月一ぱいまでに調定できる見込みでございます。ますので、それぞれの額を追加計上した次第でございます。

都市計画税につきましては、これも固定資産税との関連から百十七万七千円ばかり現在の見込みでは自然増収ということに相なりますので、同額をそれぞれ各節に分けて計上した次第でございます。

二款の二の臨時地方特例交付金、今回二百八十七万五千円追加いた

しまし、千三百四十万三千円と相なります。

これは先ほど申し上げました、たけ、消費税、市民税等の負担区分等の相違から時に、こういう制度、本年度設けられたものでありまして、これ、四千三百四十万三千円ということに相なりましたので、その残額を財源として計上したわけでございます。

交付税におきましては、八百八十九万三千円の減額でございますが、これは特交を入れます、現在決定額が一億四千七百七十万円というところでございすので、差額の八百八十九万三千円を減額したものでございす。これも国の方針としては、先ほど申し上げました臨時地方特例交付金の中に若干含まれてゐるといふような考え方であるところでございす。

五款、六款、七款につきましては、それ、それ、歳出に計上いたしました額あるいは現在収入されております額から、年度間を見通しまして、その差額を、それ、それ追加する、いは減額をいたしたものでございす。

て細部にゆたりましては、各節ごとの金額で御了承いただきたい
と思ひます。

財産収入で今日二百十三万七千円を追加いたしております。土地の
売り払い代金二百万円追加、これはすでに契約済みのものあるいは
現金収入済みのものが八百八十四万七千円でございますので、今日財産
として二百万円計上したものでございます。

寄付金につきましては、歳出に対応する額でございますので御
了承いただきたいと思います。

十款繰り入れ金につきましては、今日財政調整積立金
千五百万円減額いたしました。

これは市民センターの工事関係について特定財源として繰り
入れを予定したのがございまして、本年割額が違いましたために四十
年度においてはこれを減額して四十一年度に変更して繰り入れをする
という計画のもとに今回減額したものでございます。

二三款の諸収入につきまして、それぞれ各節にあります金額を計上してございす。競輪関係を除きましては、現在の時点でもそれぞれ見通しを付けました金額でございすので付記により御了承いただきたいと思います。

競輪関係におきまして、今日、千千五万七千内を計上いたしまして、四千七百四十万という数字になったわけでございます。

市債において二千五百万額を計上しております。これは市民センター建設に伴います起債額の減額でございまして、四十一年度は起債額は一千万という事になりましたために、今回差額二千五百万を更正したものでございます。

以上歳入概略説明申し上げましたが、歳入も差し引きまして、二千二百三十六万一千内と相なりまして、歳入歳出補正後の数字は、八億四千八百三十万六千内と相なります。

以上で一般会計補正予算の説明を終ります。

議長(田中源郎君)

本日の会議はこれにて延会といたします。

次会は明後三月十三日午前十時開会といたします。

その議事は本日に引き続き各議案の審議といたします。

午後 四時二十九分

延会

[illegible]

本日ゝ会議に付一々事件

一、開会

一、議長報告（出席説明者）

一、会議録署名議員の決定

一、会期の決定

一、議案第三号乃至三十一号

一、昭和四十二年度施政方針並に議案提案説明

一、議案第十六号乃至第三十一号

一、議案第十号

（内容説明のり）

出席議員

吉田 勇治郎 小 柴 孝

館 石 伝 蔵 田 中 祿 郎

秋 山 大三郎 田 村 源 治 郎

望月照正 安西益男

辻田実 石井正

菊井敏博 志村信作

小沢惠太郎 関武夫

黒川佐太郎 西村真次

藤田好治 保科忠夫

江田徳太郎 君塚喜三

中村省吾 島野茂樹郎

嶋田繁 山田教子

鈴木市蔵 安藤島吉

安沢徳順 三沢節

高橋文裕 山本昇

松本藤太郎 山口康

大席議員

鈴木正一郎

森田七郎

